



香川の 土地改良

発行所

香川県土地改良事業団体連合会

高松市番町 2 丁目 4 番 27-301 号

TEL (087) 822-0303

FAX (087) 851-1787

<http://www.midorinet-kagawa.or.jp/>



小豆島の冬の風物詩「芋づるの塔」(小豆郡土庄町)

目 次

1. 香川県並びに香川県議会へ再度農業農村整備事業の推進を要望2~3
2. 本会中部管内代表者会議開催4
3. 平成 22 年度補正予算の早期手当と平成 23 年度予算確保に向けた要請5
4. 「食」と「地域」の再生に向けた農業農村整備予算の確保を求める集い開催6~7
5. 「農地・水・環境保全向上対策シンポジウム in かがわ 2010」開催8
6. 第 5 回疏水百選「香川用水」水土里の路ウォーキング開催9
7. 平成 22 年度「秋期感謝祭」9
8. 平成 22 年度農業集落排水施設機能診断現地研修会開催10
9. 「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展 2010 受賞作品決定10
10. 香川県土地改良 O B 会開催11
11. 会と催し12

香川県並びに香川県議会へ 再度 農業農村整備事業の推進を要望



浜田知事(左)と大山会長(右)

去る 11 月 24 日と 12 月 8 日の両日本会の大山茂樹会長、組橋啓輔副会長ら役員が香川県庁と香川県議会を訪問し、農業農村整備事業の推進について本年二度目となる要望をした。

県庁では、浜田恵造県知事を筆頭に高木孝征副知事、天雲俊夫政策部長、西原義一農政水産部長へ要望書が手渡され、本県の農業・農村は、新たな「食料・農業・農村基本計画」に位置付けられた基幹水利施設の戦略的な保全管理や食料自給率の向上に資する農業生産基盤整備等の計画的な推進が必要であるため、平成 23 年度予算の編成において、県の特段のご配慮をお願いした。



要望書を受け取る篠原議長（右）

県議会では、篠原公七議長、平木享副議長、山田正芳経済委員長、尾崎道廣自由民主党議員会長、山本直樹同幹事長、黒島啓同政務調査会長、綾田福雄自由民主党香川支部連合会幹事長が議長室に一堂に会され、要望書受理の後、本県の農業・農村の厳しい状況に触れ、農業者の減少や高齢化の進行、農産物価格の低迷等による耕地利用率の低下や耕作放棄地の増加等による農村の活力衰退防止策についてなど質疑応答が熱心に交わされた。



▲ 第 3 応接室にて



▲ 議長室にて

要 望 書 全 文

農業農村整備事業の推進につきましては、日頃から特段のご高配を賜り、香川県土地改良事業団体連合会会員一同心からお礼を申し上げます。

本県の農業・農村は、農業者の減少や高齢化の進行、農産物価格の低迷等により、耕地利用率の低下や耕作放棄地の増加に加え、農村の活力の低下が一段と進んでおります。

このような中、国の平成 23 年度概算要求における農業農村整備事業費は、対前年比 105% 余となりましたが、平成 21 年度予算に比べれば依然として 4 割以下であり、決して十分な予算額とは言えないことから、農業・農村の計画的な基盤整備の推進が懸念されます。

厳しい財政状況下ではありますが、戸別所得補償制度を下支えし、食料自給率の向上を目指して、新たな「食料・農業・農村基本計画」に位置付けられた基幹水利施設の戦略的な保全管理や、食料自給率の向上に資する農業生産基盤整備等の計画的な推進が必要であるとの会員からの強い要望があります。

このため、本会では、会員の負託に応え、関係農家はもとより、地域住民の理解と協力を得て、農業農村整備事業の推進に鋭意努めてまいりたいと考えています。

つきましては、本会会員の熱意をご賢察のうえ、平成 23 年度予算の編成に当たり、下記の事項について、特段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

記

1. 地域の実情に即した農業農村整備事業の計画的な推進を図ることができる予算の確保を政府及び関係機関に対して働きかけるとともに、県予算についても十分に確保すること。
2. 農業水利施設の全面的な改築更新から長寿命化対策への転換、災害に強い農村づくり、食料自給率の向上に資する農業生産基盤整備等の推進について配慮すること。

香川県土地改良事業団体連合会
会 長 大 山 茂 樹

本会中部管内代表者会議開催

～ 平成 23 年度より中部支所業務を本部に移転 ～

去る 11 月 24 日、本会中部管内の代表者会議が管内選出役員である石原理事、泉川理事、三笠理事、菰渕監事出席のもと中部支所会議室において開催された。この会議の目的は平成 23 年 4 月の香川県東讃土地改良事務所移転に伴う中部支所の在り方と管内土地改良区の事務統合や合併の推進、また新規事業の香川県小規模ため池緊急防災対策事業の説明である。

冒頭、大山会長が出席者に謝辞を述べた後、現下の農業農村整備予算状況に触れ、「国の平成 22 年度の当初予算は 2,129 億円で交付金の 800 億円を加えても対前年度比 50.7%と低く、今回の補正予算を見込んでも 60%程度しかない。23 年度概算要求も特別枠や交付金等合わせて 3,308 億円程度と平成 21 年度の 5,772 億円には遥かに及ばない。これを受け、本会では 7 月に続き 11 月に農林水産省などへ予算確保のための要望活動、また香川県や県議会にも農業農村整備事業の計画的な推進などの要望を継続して実施している。今後も各方面に要望して 1 円でも多く予算確保が出来るように連合会として最大限の努力をしてみたい。」と挨拶。



大山会長



藤島課長補佐

続いて、西紋香川県東讃土地改良事務所長より、日頃の管内農業農村整備事業の推進に対する謝辞の後、農業の継続には土地改良施設の整備保全と農業従事者確保のための取り組みが必要であり、また、土地改良区の運営基盤を磐石にするためには合併や事務統合が考えられると述べた。

引き続き議題に入り、本会山地常務理事から隣接する県東讃土地改良事務所の移転に伴い、中部支所の職員を本部に統合、スリム化し、東讃事務所管内を効率的な業務な業務を行う案が出され、良否が議論されたのち平成 23 年 4 月 1 日より移転することが了承された。

次に県農政水産部土地改良課用地・管理グループ藤島課長補佐より、近年の農村地域の都市化や混住化また組合員の高齢化などで土地改良区の組織・財政基盤が低下するのを防止し、持続的な食料生産や多面的機能が維持できるよう、土地改良区の規模拡大と運営基盤の強化のための事務統合・合併について説明があった。

最後に同土地改良課防災・水利グループ喜多課長補佐より、受益地がなくなり管理放棄され防災上危険な小規模ため池を対象に災害の発生を未然に防止することを目的とした香川県小規模ため池緊急防災対策事業の説明があり、中部管内代表者会議は閉会した。



喜多課長補佐

平成 22 年度補正予算の早期手当と平成 23 年度予算確保に向けた要請

～中国四国ブロック土地改良事業団体連合会協議会～

農業農村整備事業の国の厳しい予算動向を踏まえて、中国四国ブロック土地改良事業団体連合会協議会は平成 22 年度補正予算及び平成 23 年度特別枠の確保平成 23 年度当初の確保の要請活動を平成 22 年 11 月 17 日、政府(内閣府 副大臣 平野 達男)、農林水産省、民主党 農林水産部門会議コアメンバー、県選出国會議員等 26 名に農業生産基盤整備の予算確保について要請活動を行った。当日は会員の各県土連の副会長、専務・常務理事等が出席して関係者に要請活動を実施した。なお、本県においては下記により行った。

要望者：香川県農業農村整備事業推進協議会 会長 大山 茂樹

要望内容は、

1. 食と地域の再生に向け、農業農村整備事業の推進に必要な平成22年度補正予算を早期に手当てすること
2. 平成23年度予算において、農業農村整備事業関係の特別枠を満額確保するとともに、全体規模の大幅増を図ること
3. 農業水利施設の適切な保全管理と計画的な更新整備、水田の汎用化に向けた排水対策などの農地の整備を国策として推進すること

要望者：さぬき南部地区中山間地域総合整備事業推進協議会 会長 十川 昭五

要望内容は、

1. さぬき南部地区中山間地域総合整備事業の計画的な事業推進に必要な平成 22 年度における補正予算を早期に手当てすること。
2. 平成 23 年度予算において、本事業予算の財源である農山漁村地域整備交付金の特別枠要望を満額確保するとともに、交付金の中に占める農業農村整備事業予算の大幅増を図ること。
3. 鳥獣侵入防止施設の整備は、本年度からやむを得ず「効果促進事業」として位置付けて実施しているが、地方負担の軽減のためにも、本事業の一工種として実施できるよう制度を復元すること。

要望者：香川県内場池土地改良区 理事長 泉川 静雄

要望内容は、

1. 基幹水利施設ストックマネジメント事業の計画的な推進に必要な平成 22 年度補正予算を早期に手当てすること。
2. 平成 23 年度予算において、本事業予算の財源である農山漁村地域整備交付金を確保すること。

要望者：香川県観音寺市豊田土地改良区 理事長 藤原 博

要望内容は、

1. 平成 22 年度予算において、ため池整備関係事業予算の財源である農山漁村地域整備交付金に係る特別枠要望を満額確保すること。
2. 老朽ため池の整備が計画的に実施できるよう、農山漁村地域整備交付金の大幅な増額を図ること。



平野達男内閣府副大臣に要請活動



吉村 馨農林水産省局長に要請活動



齋藤晴美農林水産省次長に要請活動

「食」と「地域」の再生に向けた農業農村整備 予算の確保を求める集いが開催される



呼びかけ人代表 水土里ネット田沢疏水 高貝久遠理事長の挨拶

冒頭、呼びかけ人代表の高貝理事長が挨拶のなかで、農業農村を下支えしている農業農村整備が衰えてしまえば我が国の農業農村が駄目になる。意欲ある担い手が将来に渡り希望を持って営農活動が出来る農業農村整備事業の基本政策の確立と万全な予算確保を求める生産現場の訴えを本日全国から集まった皆様の力を結集し政権与党を始め関係機関に訴えていこうではありませんかと強調された。

続いて、全国水土里ネット野中広務会長から参集に対するお礼と激励の言葉の後、兵庫県水土里ネット加陽等 4 団体が情勢報告を行った。そして、全国水土里ネット

去る 12 月 2 日、水土里ネット田沢疏水の高貝久遠理事長ら 66 名が呼びかけ人となり、本年 6 月に次いで 2 回目となる「食」と「地域」の再生に向けた農業農村整備予算の確保を求める集いが、東京都新宿区霞ヶ丘町の日本青年会館中ホールで開催され、全国の農業関係者 420 人余が一堂に会した。

本県からは、本会大山会長、大川地区土地改良協議会十川会長、小豆郡土地改良事業推進協議会谷久会長、三豊地区土地改良協議会村上会長ら総勢 6 名が参加した。



西村明博理事長の音頭によるガンバロウ三唱

佐藤専務理事より農業農村整備事業関係の予算の確保と農業水利施設の保全管理や更新・整備等を国策としての推進を求める要請文が読み上げられ、最後は、北海道水土里ネット由仁の西村明博理事長のガンバロウ三唱で幕を閉じた。

その後、各県団体が要請書を携え、民主党幹事長室、農林水産省、財務省、総務省に要請活動を行った。本県は、農林水産省と地元選出の衆参国会議員の議員会館の事務所を訪れ要請活動を行った。



筒井信隆農林水産副大臣への要望活動

要 請 書 (抜 粋)

農業・農村は、国の大本であり、日本の豊かな国土や自然環境も、農業・農村が健全であって初めて維持されるものです。食を巡る国際情勢も踏まえつつ、日本の農業・農村を下支えする農業農村整備の厳しい状況を打開いただくよう、下記事項の実現を強く要請いたします。

記

- 1 農業農村整備事業関係の元気な日本復活特別枠要望事業である戸別農家所得補償実施円滑化基盤整備及び農山漁村地域整備交付金について、特別枠要望額を満額確保すること
- 2 食と地域の再生に向け、平成 23 年度の農業農村整備事業予算について、特別枠を含めた全体規模を大幅増とすること
- 3 農業水利施設の適切な保全管理と計画的な更新・整備、水田汎用化に向けた排水対策などの農地の整備を国策として推進すること

平成 22 年 12 月 2 日

「食」と「地域」の再生に向けた農業農村整備予算の確保を求める集い

要 請 先

地元選出の国会議員の方々

衆議院議員	小川 淳也 様
衆議院議員	玉木 雄一郎 様
衆議院議員	大野 功統 様
衆議院議員	平井 卓也 様
参議院議員	植松 恵美子 様
参議院議員	磯崎 仁彦 様
参議院議員	山本 博司 様



「農地・水・環境保全向上対策シンポジウム in かがわ 2010」開催

「農地・水・環境保全向上対策シンポジウム in かがわ 2010」が 11 月 7 日、丸亀市のアイレックス（丸亀市綾歌総合文化会館）において、農地・水・環境保全向上対策東讃地域協議会、中讃地域協議会、西讃地域協議会主催、香川県農政水産部農村整備課共催により開催された。

シンポジウムには、主催者側から千葉宗和中讃地域協議会長、村上明秋西讃地域協議会長、共催者側から飯間 勝香川県農政水産部農村整備課長、講演者として勝山達郎中国四国農政局長、田中久二中国四国農政局四国土地



改良調査管理事務所長、活動組織の農業者や非農業者、市町、土地改良区、農協など関係者 515 人が参加した。

村上会長の開会の挨拶でシンポジウムが始まり、講演では勝山局長より「食料・農業・農村をめぐる情勢について」と題して、世界の不安定な食料事情と農業の動きから輸入大国である日本及び農地・水・環境保全向上対策と戸別所得補償制度について講演していただいた。続いて、田中所長より「香川用水二期地区における環境配慮について」と題して、農村の環境配慮と地域の環境保全活動の取組状況について講演していただき、休憩を挟み、香南池内地区自然保護組合の田中宏和代表から「耕作放棄地発生防止の取組みと地域コミュニティの構築」と題して遊休農地に向日葵・蕎麦の作付けによる耕作放棄地発生防止についての活動内容の発表があった。続いて、まんのう町帆山地域保全活動組織の近石義則記録係から「地域集落の維持・保全活動でピンチをチャンスに」と題して農村環境保全への取組み事例の発表があり、観音寺市本村地区環境保全会の大西孝典書記からは「きれいな水・土・田園風景が一丸となって育む！！」と題して環境美化についての事例発表があった。

最後に、千葉会長の挨拶で閉会となり、盛大なシンポジウムとなった。



講演：勝山局長



講演：田中所長



発表者：田中宏和氏



発表者：近石義則氏



発表者：大西孝典氏

第5回疏水百選「香川用水」水土里の路ウォーキング開催 「歩こう！学ぼう！香川の水」

11月7日、疏水百選「香川用水」水土里の路ウォーキングが、高松市川部町周辺において水土里ネット香川用水、香川用水管理体制整備推進協議会主催により開催された。第5回目となる今回は、高松市香川町の香東川大野河川敷運動場を出発し、「香川用水川部開水路」や「東部浄水場」「小田池」などを巡り香川用水の役割や水の歴史を学びながら、深まる秋を散策しようと約8キロのコースで実施された。

この日は、前日のぼかぼか陽気から一転して朝から雨が降り肌寒だったが、開会式のころには雨も止みウォーキング日和となった。3歳から78歳までの150名余りの参加者が、4班に分かれのぼりを先頭に「エイエイオー！」の檄のもと元気よく出発した。

昼ごろには参加者全員が無事ゴールし、「いつもは見ることのできない池干しを見ることができ感動した。」「全コース歩くことができとてもうれしい。」などの感想が飛び交い、参加賞の花の苗とお米を手にどの顔も満足した様子で帰路に着いた。スタッフもその笑顔をみると安堵すると共に早朝からの準備の疲れも吹っ飛び、すがすがしい気持ちで解散した。



小田池の休憩所にて

平成22年度「秋期感謝祭」

三木町東部環境整備団体

11月22日、無風状態の穏やかな小春日和の天候の下、農地・水・環境保全向上対策に取り組む三木町東部環境整備団体（代表 小林 寛）主催の平成22年度「秋期感謝祭」が木田郡二股土地改良区事務所南庭において関係機関の代表者等数十名の出席のもと盛大に開催された。

冒頭、小林代表から県及び関係機関への日頃の指導に対するお礼に続き、各池法面の草刈、各水路の浚渫、さらには、各種の景観形成の活動の年間行事報告及び参加者への歓迎の挨拶がなされた。特に、非農家も含めた地域の方々ほぼ全員の参加による各種の景観形成活動は、地域住民のコミュニティの醸成にも大いに役立っており、この活動を通じて地域のす素晴らしい環境を子々孫々に引き継いでいかなければならないとの決意表明もなされた。

この日は讃岐を代表する郷土料理である「鮎のテッパイ（切り身にダイコンとニンジンを加え酢味噌和えにしたもの）」や「どじょう汁（どじょうにうどん、豆腐、ネギ、白菜、芋、ゴボウ等季節の野菜を煮込んだもの）」とキヌヒカリの「おにぎり」が振舞われ、会場のあちこちから「これは美味しい」「最高」「体が温まる」等の声上がり、何杯もお変わりする参加者が殆どで好評であった。また、数名ずつの輪ができ、時間の経つのも忘れたかのごとく、「過去の苦労話、料理自慢の話、農業の将来展望」等幅広い分野のコミュニケーションの花が咲き、参加者一同「ニコニコと満足顔」で充実した一時を過ごした。

帰りには、参加者全員に、活動組織が育成したビオラの苗がお土産として配布された。



平成 22 年度農業集落排水施設機能診断現地研修会開催

12 月 2 日、三豊市三野町の浅津処理区汚水処理場において、平成 22 年度農業集落排水施設機能診断現地研修会を開催した。主催者と 5 市 3 町の 17 名の担当者と県農村整備課、各県土地改良事務所の担当者 6 名、本会支所の担当者 2 名と講師の 5 名を合わせた 33 名の出席があった。

主催者代表として本会の山地常務理事より農業集落排水事業の推進と施設の長寿命化及び来年度の概算要求予算等についての挨拶があった。

研修内容として、管路施設機能診断の現地調査ではマンホール内の管路施設に調査機器(管路カメラ、ガス検知器等)を使用して実践的な研修をした。引き続き、処理場施設の現地研修では機械・電気施設に調査機器(メガ、クランプメーター等)を使用して現地調査票に沿って研修した。今回の研修は実務を主体として目で見て体で感じる有意義な研修会となった。



管路施設現地研修状況

点検用カメラ



処理場施設現地研修状況

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展 2010 受賞作品決定

全国水土里ネット、各都道府県水土里ネットが主催する「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展 2010 に、全国から 10,075 点の応募があり審査の結果、入賞作品 18 点、団体賞作品 69 点、入選作品 106 点が決定し、11 月 20 日に東京都品川区の〇美術館ギャラリーにおいて表彰式が行われた。

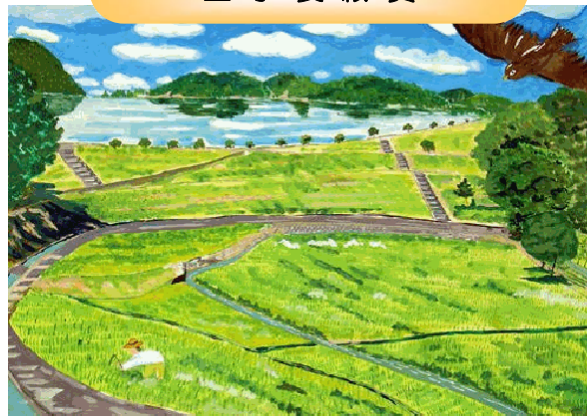
本県からは、香川大学教育学部附属高松小学校 4 年生の柳瀬美伶さんが描いた「田んぼに水を入れるおじいちゃん」が全国水土里ネット会長賞に、同小学校 6 年生の植田将暉くんの「ぼくの部屋から見える風景」が王子製紙賞を受賞した。

全国水土里ネット会長賞



「田んぼに水を入れるおじいちゃん」

王子製紙賞



「ぼくの部屋から見える風景」

香川県土地改良OB会開催



ホテルニューフロンティア（高松市）にて



世話人 長町博氏

その後、東京都在住の塚原真市氏による乾杯の発声で懇親会が開宴し、出席者は「変わりませんなあ」「お元気そうでなによりです」の会話から始まる久しぶりの同僚との再会を喜びました、都合で来られなかった方の近況に耳を傾けていた。



去る 12 月 4 日、今年も本県の土地改良事業に専従した者で組織する「香川県土地改良OB会」が、高松市西の丸町ホテルニューフロンティアで開催され、県内外から 34 人が集った。

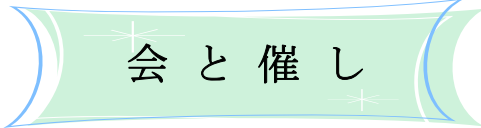
最初に世話人を代表して、(元)香川県農林部次長長町博氏から開会の挨拶と参加に対するお礼があり、続いて出席された現役職員を代表して、県東讃土地改良事務所 西紋所長より平成 22 年度の国の農業農村整備事業の予算割当て状況と本県における事業の現状や取組みなどが報告された。



西紋東讃土地改良事務所長

終始和やかに時が経つのも忘れ、現役当時の懐かしい思い出話に花を咲かせ、話の輪が大きく広がった中、愛知県から出席の三井司氏より来年の再開を約束する中締め音頭が取られ、盛会裏に終了した。

東京都在住の塚原真市氏（左写真）



開催月日	会 の 名 称	開催場所
11 月 15 日	綾川町担い手育成総合支援協議会幹事会	綾川町
15 日 ～16 日	平成 22 年度農業農村整備技術強化対策事業施工技術研修会	島根県
16 日	都道府県土地改良事業団体連合会事務責任者会議	東京都
16 日 ～17 日	高松市土地改良区連合会先進地研修	奈良県
16 日 ～18 日	仲多度土地改良事業推進協議会先進地研修	奈良県
17 日	三豊市担い手育成総合支援協議会幹事会	三豊市
17 日 ～19 日	平成 22 年度実践技術研修（GIS 技術コース）	岡山市
18 日	高松市農業振興地域整備促進協議会	高松市
18 日 ～19 日	第 5 回水田魚道に関するワークショップ（現地研修会）	徳島県
21 日	平成 22 年度秋期感謝祭（三木町東部環境整備団体）	三木町
22 日	香川県農業会議常任議員会議	高松市
24 日	香川県議会への農業農村整備事業推進要望活動	高松市
〃	中部管内会員代表者会議	高松市
24 日 ～26 日	平成 22 年度基幹水利施設管理技術者育成支援事業中国四国ブロック研修会	鳥取県
25 日	平成 22 年度第 8 回観音寺市担い手育成総合支援協議会幹事会	観音寺市
25 日 ～26 日	平成 22 年度農業集落排水施設管理技術研修会（中国四国ブロック）	島根県
26 日	第 46 回農地集団化事業推進全国研究会	東京都
26 日 ～27 日	高松市一宮土地改良区視察研修	高知県
28 日	T P P 交渉への参加に対し香川の農業を守る農業者緊急集会	高松市
30 日	平成 22 年度第 1 回香川用水二期地区環境検討委員会	高松市
12 月 1 日	土木設計積算システム代表者会	高松市
2 日	平成 22 年度農業集落排水施設機能診断現地研修会	三豊市
〃	「食」と「地域」の再生に向けた農業農村整備予算の確保を求める集会	東京都
3 日	平成 22 年度第 2 回土地改良施設管理円滑化事業推進委員会管理専門指導員会	高松市
〃	全国土地改良事業団体連合会臨時総会	東京都
4 日	香川県土地改良 O B 会	高松市
6 日 ～10 日	平成 22 年度実践技術研修（工種別コース・ため池）	岡山市
8 日	香川県知事への農業農村整備事業推進要望活動	高松市
8 日 ～9 日	平成 22 年度改良版水土里情報システム操作説明会	東京都

